

## 柘植の里3公園へどうぞ

### ■ 芭蕉公園（福地城跡）

福地城跡は館跡であり、塀跡が現存する伊賀唯一の城跡であり、三重県史跡に指定されています。城主は福地伊予守宗高。芭蕉翁の先祖は福地氏の一族であるので、この城跡を芭蕉公園と名付け、句碑や生誕碑を建て翁顕彰の拠点としています。



### ■ 余野公園

鈴鹿国立公園の特別地域として、関西随一を誇るツツジの名勝地、5月には8haのツツジが咲き乱れ約2haの広大な芝生はレクリエーションの場として、遊歩道や施設も整備され、東海自然遊歩道の拠点となっています。



### ■ 横光公園

近代日本の代表的な作家として活躍し、「文学の神様」と言われた「横光利一」の生誕100年を記念して、横光自身小学生時代の一時期を過ごした野村の地に整備されました。また近くに横光を紹介する「跳ね釣瓶公園」、柘植公民館裏には句碑があります。



#### 伊賀への道のり

大阪方面より 大阪より伊賀市柘植まで約90km

自動車：大阪市内-阪神高速-松原JCT-西名阪-天理-名阪国道-伊賀IC-芭蕉公園（福地城跡）

JR所要時間：大阪-柘植（関西本線利用 約130分）

名古屋方面より 名古屋から伊賀市柘植まで約90km

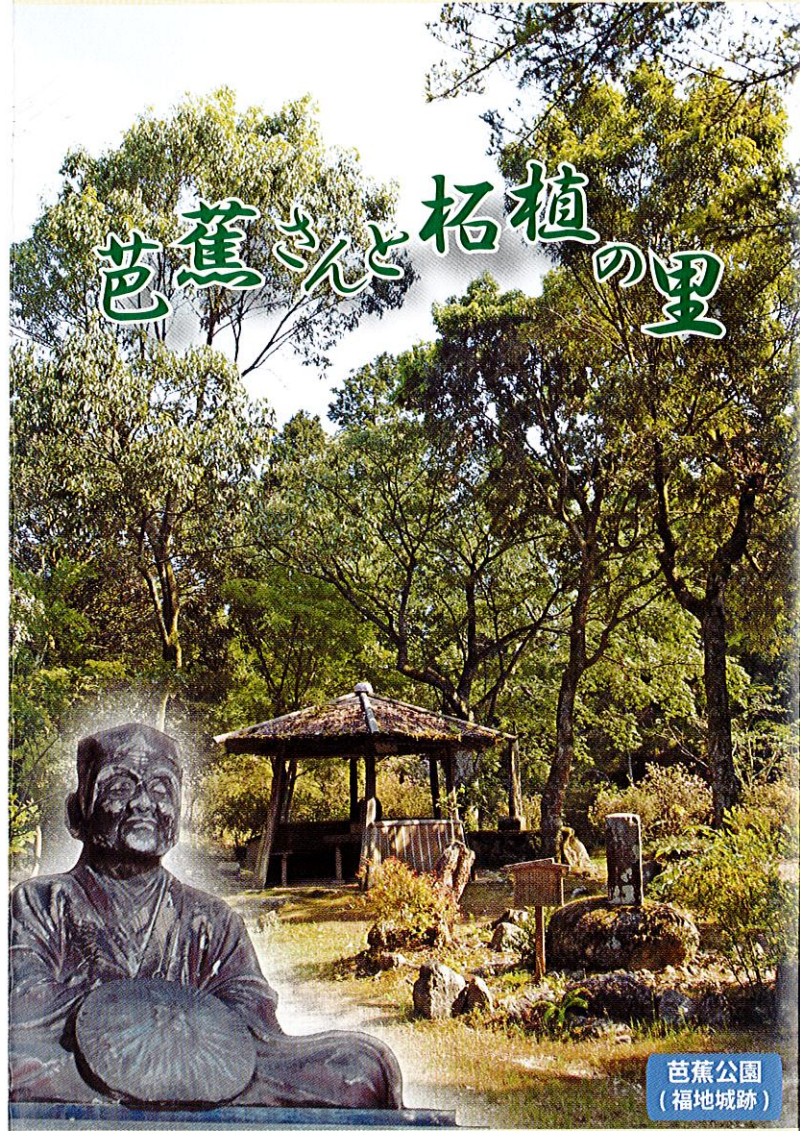
自動車：名古屋市内-名古屋高速-名古屋西JCT-東名阪-亀山-名阪国道-伊賀IC-芭蕉公園（福地城跡）

JR所要時間：名古屋-柘植（関西本線利用 約105分）

お問い合わせ / 〒519-1402 三重県伊賀市柘植町 10647 番地  
柘植地域まちづくり協議会 Tel 0595-45-8880

芭蕉さんのこころ  
ふるさとの想い

芭蕉さんと柘植の里



芭蕉公園  
（福地城跡）

山出区しぐれ忌協賛事業実行委員会  
柘植の里芭蕉翁を顕彰する会

## 芭蕉さんと柘植の里

芭蕉さんは、(親しみと尊敬の思いをこめてこう呼んでいます。)

松尾宇工門の長男である与左工門(儀左工門)の次男として、正保元年(1644年)8月15日に上柘植(山出区)の拝野に生まれたと言われています。(※生誕地については、柘植拝野説と上野赤坂説があり、伊賀市では「生誕地は伊賀市」としています)

芭蕉さんは幼少の頃、幼名を金作と言ひ、福地氏とゆかりのある長福寺(現萬壽寺)の宗智和尚のもとで小僧の修行をしていました。

- ・19歳(寛文2年・1662年)、上野藤堂藩に仕え、藤堂良忠(俳号蟬吟)に仕え、松尾宗房の名で発句。
- ・32歳(延宝3年・1675年)名を桃青に。江戸で西山宗因の句会に出席、以来不易流行、風雅の誠を極める俳諧の道へ。
- ・37歳(延宝8年・1680年)江戸深川の芭蕉庵に住み、俳号を芭蕉と改名。
- ・46歳(元禄2年・1689年)3月に河合曾良を伴い「奥の細道」の旅に。行程約600里、約150日余。
- ・元禄7年(1694年)10月12日、大坂御堂の前花屋で門人に看取られ他界。享年51歳。

芭蕉さんの人生の大半は漂泊の旅であり、祖である福地一族が天正伊賀の乱で反逆罪扱いされたことから、故郷にはほとんど足を運んでいませんが、郷愁の思いが強かったことは芭蕉さんの次の手紙で明らかです。  
元禄2年(1689年)正月17日付、兄の半左衛門へ。

「山出御無事に御座候哉御老人心元なく存候七郎左衛門方あねじゃ御無事に御座候哉」と書き送っています。

## しぐれ忌

芭蕉さんの没後100回忌が寛政4年(1792年)松尾家をはじめ郷土の有志、在外の俳人や蝶夢に蝶夢と親しかった富田杜音が柘植でしぐれ忌を行っており、これが伊賀での最初のしぐれ忌です。明治26年(1893年)には200回忌、さらに明治44年(1911年)には萬壽寺に桃青殿が作られ、芭蕉さんの位牌と木造坐像が安置され、以後、しぐれ忌法要は、第2次世界大戦を除き、毎年11月12日に営まれています。



## 萬壽寺

萬壽寺は、芭蕉さんの菩提寺です。萬壽寺の前身は長福寺といわれ福地一族の祈願寺であり、芭蕉さんと深いかわりのあるお寺です。

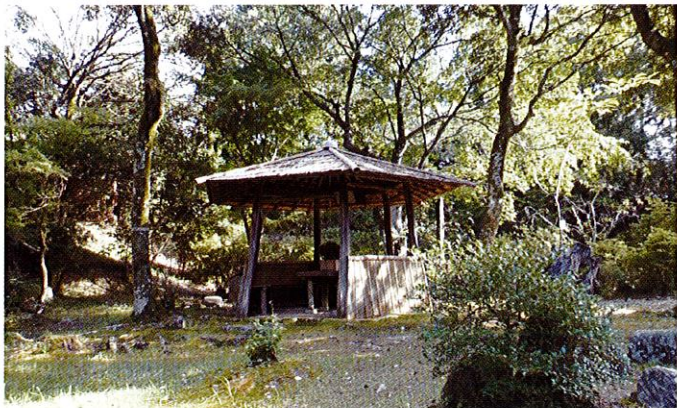
長福寺は宝暦10年(1760年)に萬壽寺と改称され、今日に至っています。萬壽寺は昭和7年(1932年)に焼失、昭和9年(1934年)新しく落慶法要が行われました。本堂には重要文化財・地蔵菩薩坐像、県指定文化財・木造不動明王立像、芭蕉さんを顕彰する桃青殿が安置されています。また境内には芭蕉さんの墓標があります。



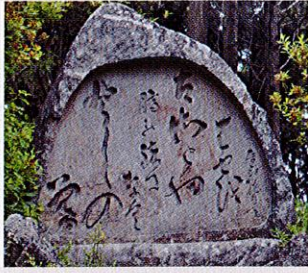
## 芭蕉公園 (県史跡・福地城跡)

芭蕉公園の前身は福地城跡です。明治26年(1893年)、芭蕉さんの200回忌にあたり、松尾宇八郎氏が福地伊予守から譲り受けていた現在の芭蕉公園の土地約1反8畝歩を当時の東柘植村に寄贈され、松尾6家をはじめ、村の有志によって、芭蕉翁生誕の碑を建立し、顕彰事業が行われました。

その後、明治43年(1910年)に東柘植村の支援や郷土の篤志家によって一時荒廃していた城跡を公園化し、芭蕉公園と名付けられ、芭蕉さん顕彰のシンボル、地域住民の憩いの場となっています。また公園入り口には、芭蕉生誕360年記念の「芭蕉さんが行く〜旅・自然に遊ぶ〜」をテーマにしたモニュメントが設置されています。



# 柘植の里にある句碑



芭蕉公園 (福地城跡)

ふるさとや  
臍の緒になく  
としの暮れ  
はせお (芭蕉)



芭蕉公園 (福地城跡)

早稲刈りに  
そばへが通り  
虹が出し  
細見綾子



芭蕉公園 (福地城跡)

鶯や  
昔を問えば  
風の音  
松瀬青々



芭蕉公園入口

蕎麦はまだ  
花でもてなす  
山路かな  
はせを (芭蕉)



芭蕉公園への途中

芭蕉さんと  
村童のいふ  
刈田道  
西村白雲郷



萬壽寺山門

一声は  
柘植の在所へ  
ほととぎす  
貝増卓袋



伊賀支所前 (下柘植)

草いろいろ  
おのおの花の  
手柄かな  
はせお (芭蕉)



都美恵神社

雪よりも  
風の百日  
伊賀盆地  
宮田正和



J R 柘植駅

手にとらば  
消えん泪ぞ熱き  
秋の霜  
はせお (芭蕉)



柘植公民館裏

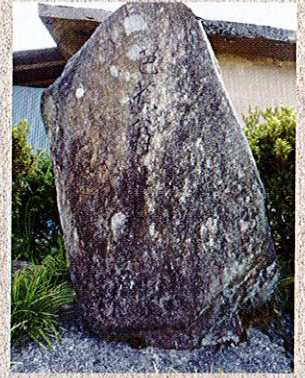
蟻  
臺上に餓えて  
月高し  
横光利一



芭蕉公園 (福地城跡)

## 芭蕉翁生誕宅址

山出区拜野の松尾雄氏の屋敷で、明治初期まで四方に土塁がありました。道路拡張により取り除かれています。その面積は3反近くもあり、家老屋敷としての形を残していました。宅址の碑は裏にあったものを昭和43年(1968年)に現在地に移したものです。



## 「柘植の里芭蕉翁を顕彰する会」へご入会を

伊賀地域ではこれまで松尾芭蕉翁を顕彰する組織として、旧伊賀町に「いがまち芭蕉翁顕彰会」、旧上野市には「財団法人芭蕉翁顕彰会」があり、それぞれ顕彰活動を行ってきました。

しかし、平成16年11月に伊賀地域の6市町村が合併し、伊賀市が誕生したことにより、両顕彰会が協議し、平成19年4月に統合、新しく「財団法人芭蕉翁顕彰会」が発足しました。

新組織の発足にともない、とくに芭蕉翁200回忌(明治26年1896年)以後、毎年、翁を偲ぶ「しぐれ忌」等の顕彰活動が続けてきた旧伊賀町・柘植の里ではこれまでの行政主体の活動を、地域住民が中心になって進めようと、自主的な組織として、平成17年10月に「柘植の里芭蕉翁を顕彰する会」を結成、今日にいたっています。

会の主な活動は、「しぐれ忌」(毎年11月12日)、芭蕉翁ゆかりの地を訪ねての研修、俳句づくり活動の推進、芭蕉公園等の環境整備などです。

会の目的に賛同くださる方、どなたでも入会大歓迎です。会費は年500円。